

## カシオ コーポレートレポート2006に対する第三者意見

当意見は、本報告書の記載内容に基づいて執筆しています。  
 同社のCSRへの取り組みは、環境負荷の削減や取引先への取り組みの呼びかけなど、広範な項目についてPDCA(マネジメント・サイクル)を進め始めていると言えます。

### 評価すべき点

- 色覚上の障害を持つ人に配慮して、グラフや図などにバリアフリー・デザインを取り入れていること。
- 辞書の電子化、タフソーラーや省電力LSIを搭載した腕時計、次世代燃料電池など、環境負荷削減型の製品開発に積極的に取り組んでいること(P7-P9、P16)。
- 「1万人の工場見学」を通じて、従業員の家族や地域の小中学生に対して、仕事を体験的に理解する機会を積極的に提供していること(P19)。
- 事業別のマテリアル・バランスなど、より詳細な情報を、Web版で紹介していること。

### 一層の努力を求めたい点

- 二酸化炭素排出量、水使用量、廃棄物発生量が、いずれも2年連続で目標達成できておらず、目標に無理があるか、マネジメント・システムが機能していないか、いずれかが危惧されます(P21・P41)。特に二酸化炭素排出量の実質生産高原単位および総量の双方については、2010年に向けた取

り組みを、業績や市場価格の変動を積極的に織り込んだ上で、年度ごとの目標と具体的な実施内容を明示することを強く求めます。また、生産現場での日常業務上の省エネについても、先進事例を積極的に学び、徹底して推進することを強く求めます。さらに、環境保全委員会のもとに運営される各委員会や部門が、結果の報告にとどまらず、予測に基づく踏み込んだ取り組みを促す場となることを、強く希望します。

- グループ企業や主な取引先など、サプライチェーンにおけるEHS(環境・健康・人権・安全)の基盤整備も、積極的に支援すること。

IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]

代表者

川北 秀人



IIHOE:「地球上のすべての生命にとって、民生的で調和的な発展のために」を目的に1994年に設立されたNPO。主な活動は市民団体・社会事業家のマネジメント支援だが、大手企業のCSR支援も多く手がける。  
<http://www.iihoe.com>

## 第三者意見での「一層の努力を求めたい点」への考え方と今後の対応

今回は、企業のマネジメント、CSRや環境・社会コミュニケーションの推進に対するご指導に多くの実績をあげられている、IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所]代表の川北秀人さんに第三者意見をお願いしました。

ご指導いただいた点の内、取引先に対する責任、障害者雇用、地球温暖化防止についての記載の仕方等、速やかに

対応できるものについては、できるだけ今回のレポートに盛り込むようにしました。

一方、「一層の努力を求めたい点」としてご指摘いただいた事項については、今後の課題として受け止め、以下の通りこれからの活動に反映し改善に努めていきます。

### <環境について>

目標に対する実績については、デバイス事業の生産増と単価下落が予測を超えたことが大きく影響していますので、今後は重点的にデバイスの生産拠点別目標設定、及び達成計画や個別の手段等を明確にして、進捗管理をしていきます。

同様にエレクトロニクス事業においても、今までのグループ目標に加え拠点別目標を設定し、拠点ごとの推進施策や活動計画と進捗状況・結果が見える情報の共有化を図っていきます。特に、生産拠点の特徴や役割機能に即して、先進事例の検証、新しい環境技術の検討や設備導入等々、拠点の施策がわかるような仕組みを構築していきます。

このように、拠点別の計画精度を上げて、グループ目標の実現に取り組んでいきます。

### <EHS(環境・健康・人権・安全)基盤整備について>

グループ企業については、従来は経営理念と創造憲章を共有し、大枠での足並みは揃えてきたものの、個々の対策については、各企業の個別の事情に則した取組みを行ってききました。今後は、カシオ計算機を中心にグループ全体としてEHS基盤整備の計画を策定し、グループ全体のレベルアップに繋がるよう推進していきます。

サプライチェーンに対しては、環境・健康・人権・安全等への配慮を織り込んだ「資材調達方針」に照らして、お取引先毎の遂行状況を把握・評価し、支援が必要なお取引先については教育・指導等を行い、サプライチェーン全体の底上げを図っていきます。